

# PCSA アクションレポート（不正対策研究部会）

平成 29 年 9 月版

## 第 135 回不正対策研究部会

- 開催日時 平成 29 年 9 月 15 日（金） 午後 1 時～午後 3 時
- 開催場所 PCSA 会議室
- 出席人数 部員 10 名、正会員オブザーバー 1 名、日遊協参加者 2 名、オブザーバー 1 名、合計 14 名
- 出席者 <リーダー>
- 松本 浩 株式会社ヒカリシステム 設備マネジメントグループ メンテナンスチーム アシスタントマネジャー
- <サブリーダー>
- 市川 忍 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 リスク管理担当
- <部員>
- 倉沢 隆志 株式会社ニラク 法務部 コンプライアンス担当
- 松尾 武 運営推進部 遊技機流通支援・不正対策グループ マネジャー
- 梅野 唯行 株式会社合田観光商事 セキュリティ課 課長
- 上野 誠 株式会社ヒカリシステム 設備マネジメントグループ メンテナンスチーム
- 春原 正愛 アメニティーズグループ（株式会社アメニティーズ） 監査室 係長
- 柏 信吾 アメニティーズグループ（株式会社パンドラ） 営業支援部 主任
- 平井 信行 株式会社チアエンタープライズ 総務部 法務担当 Mgr
- 山本 譲 株式会社三永 業務推進課 係長
- <正会員オブザーバー>
- 磯本 一 株式会社キョウサン 課長
- <日遊協参加者> 2 名
- <オブザーバー>
- 高石 隆一 様 有限会社ジャパン・セキュリティ・サービス 代表取締役社長

### 1) 日本電動式遊技機工業協同組合 訪問依頼について

個別のホール団体訪問を受けていないという事で、ゴト 4 団体会議（全日遊連、日遊協、日電協、日工組）へのオブザーバー参加とその場での情報交換を勧められた。現在、オブザーバー参加の推薦を先方に依頼中。

### 2) 不正対策研究部会 質問コーナー

- Q：誤差玉・誤差メダルが出た場合の調査の義務に「これ以上なら調査」「これ以下なら調査しない」等の許容を設けているか。またその許容の算定基準は？
- ・ホールコンピューターのメダル、玉を計上する際どうしてもある程度の誤差が発生してしまう。システム改変には費用が掛かる。また、次の日であれば本部の担当部署でつきあわせ作業などは出来る。
  - ・固定でメダルは○枚、玉は○玉までと許容範囲が決まっている。

- ・設備の老朽化によって誤差がほぼ毎日出る店舗であっても、通常の誤差と違うとイレギュラーを感じたら調査をしている店舗がある。（枚数で固定ではない）
- ・店舗の稼働状態によって許容できる枚数玉数の範囲は変わる。
- ・様々な不正の可能性も検討しながら、設備の故障も確認すべき。
- ・店舗での確認が出来ない野であれば、本部で実施すべき。

### 3) 最新ゴト被害について

メーカーA 遊技機 B のゴト情報が、メーカーより全日遊連へ通知され、現在各都道府県遊協へ伝わっている最中。各自、現場での遊技機確認と継続した注意喚起をお願いした。

### 4) ゴト被害アンケート 8 月について

アンケート回答 9 社。電波、持ち込み、レート変更などで、被害件数 12 件、被害額¥54,359-、警察への通報回数が 2 件、被害届申請が 2 件、被害届受理が 1 件となっている。原因不明の誤差玉が 22 件、不正基板疑惑でメーカーに検査を依頼中が 1 件あり、各自の情報を共有した。

### 5) 内部不正対策

今回は内部不正の「設定を変更できる人による設定漏洩」への対策がテーマ。具体的な下記事例への予防、対策等が話し合われた。また、次回の部会では、「カウンター周りでの内部不正」の具体的な事例を数例挙げて、それぞれどう対策したのか、又考えられる防止策をアンケートする。

Q 設定を変更できる人（店長）の設定漏えいを防ぐ方法。またはリスクを減らすために何が出来るか。

1. 設定情報の持ち出し防止策（勤務外に設定を教える）
2. 外部への連絡手段（勤務中に設定を教える）
3. 他人の設定漏洩を発見した（疑わしい）時の対応方法
4. 実機と登録情報が正しいかの確認方法（登録は 1 なのに、実機は 6 になっているなど）
5. 高設定台にピンポイントで座る人の発見方法
6. 指示と異なる設定変更を行うことへの対策方法
7. 怪しい時の調査方法（内偵、携帯履歴を見る、警察へ通報、など）

### 6) 次回開催

平成 29 年 10 月 27 日（金）

拡大不正対策研究部会・不正対策勉強会 in 大阪

午後 1 時～5 時

貸会議室 大阪研修センター江坂

以上